

令和6年度 自己評価表【案】

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

中長期目標	「ICT活用教育を充実させながら、学科を超えた総合選択制による学びをととして、農業、情報、家庭、工業の幅広い知識や専門的な先端技術を習得し、地域産業に貢献する人材の育成を目指します。」 ①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育てキャリアの充実を図る ②生徒の主体的で深い学びを促し、他者と協働しながら課題解決を図ろうとする能力を養う ③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する ④生徒一人一人の心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める	今年度の重点目標	「教育活動全体をととして生徒理解を徹底し、一人一人に応じたきめ細かな教育を行う」 地域産業を担う専門人材の育成 【自立を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進】社会で必要となる素養と規範意識を高める 【協働の学びで自他を高める教育の推進】ニーズに応じた地域連携と地域貢献を積極的に行う 【学びを創造する力を高める教育の推進】デジタルを活用しながら、探究的な学習を充実させる
-------	--	----------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (10) 月		
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況 学校評価アンケート等評価基準 A80%以上B70%以上 C 60%以上 D50%以上 E50%未満	評価	改善方策
1 自立を促す教育のリア形成能力を	基礎学力、専門領域の基礎基本の充実	○基礎力診断テストが4月より8月に向上した割合 1年51%(R4 43.6%) 2年74.6%(R4 72%) 3年69.7%(R4 69.4%) 結果は下降傾向(全国平均下回る) ○家庭学習ほぼ毎日 生徒 H31 25.9%→31.3%→30.2%→38.6%→R5 36.9%	○主体的に学習に取り組み、知識・技能を向上させている ○基礎力診断テストの結果が向上している ○家庭学習がほぼ毎日できている生徒が増加	○基礎力診断テスト結果を共有し学力向上対策を検討	○4月実施の基礎力診断テストの結果は全体的に例年並みの成績である。昨年より向上した割合は2年21%、3年27.5%で、昨年度を下回る。 ○3年生には『進路ガイドブック』を作成し、各生徒がそれぞれの進路実現を目指し活用している。 ○家庭学習をほぼ毎日している生徒は42.2%であり、増加している。	B	○落ち着いた学び直しに取り組める環境整備が必要ではないか。 ○進路ガイダンスを1・2年対象で後期に実施し、進路意識の高揚を図る。
	勤労観・職業観とキャリア形成能力の育成	○インターシップ・企業等見学は予定通り実施 ○自分の適性や進路希望を生かす進路指導 生徒 H31 79.3%→82.5%→85.5%→84.4%→R5 82.3% ○就職内定率100%(3月)うち県内割合82.7% 進学合格率98.9%(3月)うち県内割合50.5%	○進路学習をととして勤労観・職業観を高め、自らのキャリアを設計する基礎を身につけている。 ○自分の適性や進路希望を生かす進路指導が行われている ○就職内定率 100%、進学合格率 100%	○インターシップの体験先は生徒の進路選択の参考になるよう選定 ○就職試験への体制構築を含めた進路プログラムの練り直し ○各科を中心に個別の進学対応(小論文指導等)を実施	○本校の進路指導に対して9割程度の生徒が肯定的に受け止めている(自分の適性や進路希望を生かす進路指導90%、進路に関する必要な情報や資料を提供93.2%) ○進路決定は2学期以降		○3年生全員の進路が決定できるよう学年と連携して生徒を支援する。
	資格検定への積極的な挑戦	○資格検定は概ね予定通り実施 合格率62.4%(R5) 一人あたり平均取得資格数1.6件(R5) ○高度な資格検定にも挑戦し取得者増 (スペー農林水産業士、日本農業技術検定2級、電気工事士等)	○高度な資格検定に挑戦する生徒の増加 生徒一人当たりの取得資格数 1.7件以上	○合格に向け検定問題の研究・工夫(ICT活用・補習・社会人講師等)、不合格者対応等 ○国家資格等高度な資格検定への積極的な受検を推進	○「資格取得に熱心」と答えた生徒は87.3%、「資格取得に計画的・組織的に取り組んでいる」職員は92.5%である ○資格取得状況の詳細は後期で報告、現時点では下記の通り(合格率(合格者/受験者)) F, G, I-1, 2, 3年ビジネス文書検定 3級93%(42/45) 2級68%(19/28) 1級29%(2/7) M2年I2, 3年情報技術検定 3級100%(1/1) 2級50%(8/16) M3年機械製図検定32%(9/28) M1, 2年計算技術検定90%(18/20)		○授業での指導及び放課後補習の実施により全員合格を目指す。
	規範意識の育成	○掃除が行届き、すがすがしい環境 生徒 H31 62.8%→68%→60%→64.6%→R5 58% 教員 H31 52.7%→50.9%→58.4%→62%→R5 66.7% ○服装や身だしなみが整う 生徒 H31 92%→90.6%→84.4%→81.8%→R5 89% 保護者H31 67%→67.3%→61.6%→58.4%→R5 53.1% ○欠席・遅刻者数が多い	○規律ある学校生活を通して「見られる自分」を意識し、規範意識・社会の一員としての自覚を高めている ○掃除が行き届き、教室実習室等が美しく保たれている ○服装や身だしなみが整っていると回答する生徒保護者の増加 ○欠席・遅刻者数が減少している	○掃除用具の補充、リスマップ増量、ワックスがけ等掃除しやすい環境を継続 ○TEASⅡ更新審査(R6.10月)合格を目指す ○授業規律、服装頭髮、遅刻等について校内連携、保護者協力を得ながら継続指導	○掃除用具の適宜補充とワックスがけ・足拭きマットの高圧洗浄等を行い、掃除がしやすくなったこともあり、きれいに掃除がされている。清掃が行き届いてすがすがしい学習環境と答える生徒72.9%(R5 58%)、教員62.2%(R5 66.7%)。 ○年度当初に環境教育・ゴミのゴミ持ち帰り等の指導をした。プラスチックゴミは減少傾向。		○清掃用具が足りているか確認を行う。 ○TEASⅡ合格に向け各科環境に良い教育を行いながらゴミの削減等の努力を継続する
2 協働の学びで自他を高める教育の推進	地域連携と地域貢献	○湖陵フェスタは通常規模で開催し盛況(来場約812名) ○地域と連携、学校外教育力活用 教員 H31 90.9%→80.3%→92.3%→94%→R5 87%	○学びの成果を地域で活かす経験を重ねることで生徒の学ぶ意欲を育て、地域に対して本校の教育活動の理解を深めている。 ○近隣の学校や施設等との交流活動をととして、地域の教育力を取り込み学びを深めるとともに、地域貢献の意識を高める	○湖陵フェスタは来場者が参加しやすく、より楽しめる体験など内容・形態を再検討 ○本校の教育資源を活用し地域との交流事業を継続・推進し、地域連携による学習成果を校外へ発信、連携が期待できる企業・施設・上級学校等を開拓	○独自事業は計画に基づいて実施され成果を上げている ○「交流活動で学びが深まる」生徒68%があてはまる(R4有意義で役立つ授業がある90%) ○「地域社会と連携して学校外の教育力を活用」教職員83%があてはまる	C	○湖陵フェスタ+青陵祭を検討中 ○生徒の68%は湖陵フェスタ、上級学校見学、インターンシップなどの行事終了後はさらに増加すると思われる。
	人権教育の推進	○人権や命を大切にする教育実践 生徒H31 79%→79.9%→92.3%→81.7%→R5 89.3%	○障がいのある方や異世代間交流、人権教育LHR等教育活動を通して、人権を尊重し自他を愛し共に生きる心を育む	○人権教育LHR等教育活動で、生徒が主体的に取り組めるよう工夫する ○公開人権教育LHRや研修会への保護者参加増に向けPTAとの連携を推進	○本校の生徒は人権を尊重する意識が育っている(生徒84%、教職員92%R4は75%)本校は、学年ごとに講演会があり、生徒のアンケートも良かったという意見が多い		講演会等でも質問コーナーなどを設けるなど、興味を引く展開を試みているが、更により良いことができるのか検討していきたい。
	積極的な情報発信	○学校紹介DVD更新、学校HPにスクールビューー開設 ○授業参観日4回実施(Googleフォーム活用) 保護者57名参加、月1回の開催が定着化 ○保護者と連携 保護者 84%(R4)→85.9%(R5)	○保護者や地域に対して適切な情報発信ができている	○「鳥取湖陵チャンネル」(YouTube)や学校ホームページ、Instagram等の活用による積極的な情報発信を継続、生徒の保健活動をPTA広報誌や学校HP等で紹介 ○学校全体でタイムリーな情報発信 ○授業参観日の継続実施	○鳥取湖陵チャンネル視聴状況は4月～7月：763回 15時間 ○HPレイアウト変更時にアクセスカウンターを削除したため詳細には把握できていないが参考839回。 HPアクセス状況は後期で報告 ○中学生オープンスクール保護者参加44名 ○保護者アンケートなし ○「教育活動をHP等で積極的に情報発信」教職員79.3%が肯定的回答		学校行事、学年行事、各科の行事をHP担当者が積極的に発信していく。 YouTube、インスタ掲載がHPでもわかるように仕様を変更。 HPについては、他校と比較しても掲載頻度は高いと思われる。YouTubeやインスタでの情報発信についてはハードルが高いものとなっている。

令和6年度 自己評価表【案】

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

中長期目標	「ICT活用教育を充実させながら、学科を超えた総合選択制による学びをととして、農業、情報、家庭、工業の幅広い知識や専門的な先端技術を習得し、地域産業に貢献する人材の育成を目指します。」 ①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育てキャリアの充実を図る ②生徒の主体的で深い学びを促し、他者と協働しながら課題解決を図ろうとする能力を養う ③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する ④生徒一人一人の心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める	今年度の重点目標	「教育活動全体をととして生徒理解を徹底し、一人一人に応じたきめ細かな教育を行う」 地域産業を担う専門人材の育成 【自立を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進】社会で必要となる素養と規範意識を高める 【協働の学びで自他を高める教育の推進】ニーズに応じた地域連携と地域貢献を積極的に行う 【学びを創造する力を高める教育の推進】デジタルを活用しながら、探究的な学習を充実させる
-------	--	----------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (10) 月		
3 学 び を 創 造 す る 力 を 高 め る 教 育 の 推 進	デジタルの活用と探究的学習の充実	○校内公開授業実践35回 ○授業がわかりやすいように先生が工夫 生徒H31 73.2%→80.7%→79.2%→81.3%→R5 82.8% ○授業改善に向け日々取り組む 教員 H31 81.8%→82.2%→84.6%→90%→R5 90.7% ○端末で授業に関心、主体的取組 生徒H31 69.7%→69.2%→68.4%→69.7%→R5 77.9% ○ICT活用に関する研修会で職員のスキルアップ	○実践的な専門教育を通じ、産業界で必要とされるより高度な知識、技能に挑戦している ○協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学びを実践し、主体的で深い学びに導く ○ICT活用教育を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつけている ○BYAD「一人一台端末」を有効に活用し、効率的な学習環境を実現する	○校内公開授業実践・授業参観を継続実施 ○ICT活用に関する研修会の実施、新システム(学習eポータル「まなびポケット」)導入に向けて検討する。 ○GoogleWorkspaceによる課題配信等で家庭学習時間の確保につなげる ○生徒の興味関心・意欲を引き出せる効果的なICT活用教材を全教科で研究	○年度当初の計画に基づき、各科で外部の専門家を招いた講座・実習や外部施設に出向いた実習を実施している。 ○学び合いやタブレット端末を活用した授業を通して、8割以上の生徒が「理解が深まる」(86.9%)、「主体的に学べる」(89.7%)と感じている。日々授業改善に取り組む職員は94.4%。(1学期末アンケート結果) ○校内公開授業(1学期)の実施回数7回。(4名・3教科) ○図書館を活用した探究的な学習が増加している。	C	○ICT活用に関する研修会の実施。 ○生徒の主体的な学びの充実に向けて、学習eポータル「まなびポケット」の機能を試行する。 ○校内公開授業実施と参観の推進(声かけ)。 ○図書館とICTを活用した探究的な学習の充実を図る。
4 業 務 改 善 の 取 組	時間外業務時間の削減	○時間外業務時間数(教職員月平均) H31 14.1→11.5→11.1→13.6→R5 11.4時間 時間外業務時間年間計360時間を超える職員数5人 ○GoogleWorkspaceの活用(教職員間の連絡・情報共有、生徒への課題配信・アンケート等) ○校内文書共有データベースの導入(業務の迅速化及び公文書管理の適正化)	○時間外業務時間年間計360時間を超える職員を3人以下にする ○適切な業務改善を継続	○無理のない行事計画(成績締切・会議等)を継続的に検討 ○年休等が取得しやすい環境づくりの推進 ○部活動の精選を中・長期的に検討 ○学事システムの操作手順をマニュアル化、「百問繚乱」の活用等による業務の効率化 ○教職員連絡の端末配信の効率化を推進 ○紙媒体をデジタル化できるものの検討・実行 ○朝の保護者からの欠席等連絡の方法を検討	○時間外業務時間数(月平均)は、5～7月で昨年度実績より減少している。 ○「百問繚乱」活用研修を行い、利用者が増えている。 ○保護者からの欠席連絡用googleフォームを作成して運用を開始した。	B	○部活動による時間外業務時間が月30時間を超えないよう、翌月の計画段階で調整する。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] 60%程度 [40%程度] [30%程度]